



南三陸町立歌津中学校

歌津中学校だより

たつがね



教育目標 志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成

令和6年3月12日

第35号

文責：伊藤 浩志

3月9日（土）卒業式が行われました



3月9日（土）第77回卒業式が執り行われました。

担任の和泉先生からの呼名に大きな声で返事をし、校長先生から1人1人卒業証書が授与されました。9年間の義務教育を終えた生徒たちの堂々とした姿が輝いていました。

送辞では、生徒会長の阿部ひよりさんが卒業生への感謝の気持ちを切々と述べると、答辞では、阿部吾公さんが「全ての人たちへの感謝の気持ちを心からありがとう」と伝える内容でした。そして、3年生の卒業合唱として「サザンカ」の合唱がありました。深々と心に響き、3年生の気持ちがひとつになっていくのが伝わってきました。その後、「群青」の全校合唱の中、卒業生が退場しました。たくさんの方への感謝や中学校生活への思いが会場いっぱいに広がりました。厳粛な中にも感動のある温かい卒業式になりました。

たくさんの方の心温まるお励ましの言葉もいただきました。ありがとうございました。

<卒業式 式辞>

ひんやりとした空気の中にも、時折見せるあたたかな日差しと、さわやかな緑の風が吹き始め、ここ歌津の地にも春の訪れが感じられるようになりました。今日ここに、南三陸町副町長三浦浩様、南三陸町議会議員議長星喜美男様をはじめとする、5名の議員の皆様、本校PTA会長牧野晴道様、本校同窓会長井上誠様、南三陸町教育委員会教育長齊藤明様、そして、たくさんの保護者の皆様のご臨席を賜り、南三陸町立歌津中学校第七十七回卒業式を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

ただ今、二十四名 一人一人に卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございました。皆さんを含め、この学び舎から巣立った卒業生は、八千二百、七十八名 となりました。授与した卒業証書は、中学校の課程を修了したことの証であるとともに、義務教育を終え、これから始まる新たな世界に向けて、自らの力で歩み出すためのチケットでもあります。堂々と胸を張り、大きな一歩を踏み出してください。

私は、皆さんとは、わずか一年間だけのおつきあいでしたが、皆さんにはそうは感じさせない親しみやすさと素直さがありました。四月、個人的には、二十年ぶりの歌津中学校勤務を命ぜられ、大きな期待と少しの不安を抱いて赴任して参りました。しかし、ここには、最高学年である三年生を中心に、勉強、部活動、そして様々な行事や活動に対し、一生懸命、誠実に取り組んでいる姿がありました・・・「昔の歌中と、変わっていない！この学校に戻って来ることができて、本当に良かった！この生徒たち、この地域のために精一杯頑張ろう」と心に誓いを立てたのを覚えています。

一年間を振り返ると、三年生の皆さんは、友達や仲間の個性を認め、その中で自分の成長に向けて努力する姿勢が抜群でした。人と人が一緒に生活すれば、時には摩擦やすれ違いが生じるものです。しかし、そのような時でも、皆さんは歩み寄り、解決し、前を向いて 共に歩むことができていました。

歴史と伝統を誇る本校にあって、皆さんは学校のエネルギーの中心であり、頼もしい存在でした。そんな皆さんと一緒に、歌津中学校で生活できたことを大変うれしく思います。

さて、卒業に当たり、みなさんに、大切にしてほしい二つのこととお話します。

一つ目は、「目に見えないものを大切にしてほしい」ということです。

皆さんは「星の王子さま」という童話を知っていますか？フランスの作家サンデクジュペリは、この本の中で、「大切なものは目には見えない」という言葉を読者に投げかけています。

目には見えないけれど 心で見ると大切なものは確かに見えるんだよと、教えてくれています。

私達日本人は、十三年前の東日本大震災、そして今年一月に起きた能登半島地震をとおして、人に対する優しさや、人の心の温かさ、人を思いやることの大切さ、人間のすばらしさを、身をもって、そして心で感じることができました。

「目に見えないもの」とは「思いやり」と置き換えることもできるでしょう。「人への思いやり」や「優しさ」こそ、人間の本当の強さであると思います。

「思いやり」は、どんなものにも立ち向かえる大きな力である！・・・私は、そう思います。

二つ目は、

「本当に賢い人間は、人を馬鹿にしない。」

「本当に強い人間は、弱い立場の人をいじめたりはしない。」

「本当に優しい人間は、自分を大切にし、自分以外のまわりの人も大切にする。」

「人間の値打ちは、地位や名誉・財産などではなく、自分がどれほど人の役に立てたかで決まる。」

ということです。

この言葉は、今後 皆さんが成長していく上で人としての大切な事柄が含まれています。たくさんの経験をしていく中で、迷ったり、悩んだりしたとき、逆に成功したと思った時にこそ、思い出してほしい言葉です。是非覚えておいてください。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

9年間の義務教育が終了となるこの晴れの日を迎えるまでには、大変なご苦勞があったのではないかとご推察いたします。東日本大震災後、仕事や生活を立て直すことはもちろん、子どもたちの笑顔、泣き顔、寝顔を見る度に、「この小さな我が子を何とか育てなければ」と必死だったはずです。何とか復興の兆しが見えてきた中での新型コロナウイルス感染症の流行による様々な制約・・・何でこの子たちの時ばかり・・・と思うこともあったのではないのでしょうか。

しかし、そのような困難な中においても、保護者の皆様・ご家族の皆様のいつくしみと愛情あふれる子育てがあったからこそ、こんなに立派に成長され、今、区切りの旅立ちの時を迎えられているものと思います。

本当に心からお祝いを申し上げます。

また、三年間に渡りまして、本校の教育活動推進のために、温かいご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

最後に、二十四名の卒業生の皆さんの限りない発展を、心からお祈り申し上げ、式辞といたします。